

ツバメの子育てを観察しよう - I 事前学習用パワーポイント解説

作成：(公財) 日本野鳥の会

この資料は、教員向けガイドブック「ツバメの子育てを観察しよう」を使ってツバメの学習を行う際の補助教材として日本野鳥の会が作成した、パワーポイントの解説です。

■目的：

- ①ツバメの生態と、その子育てについて知る。
- ②野外でツバメの子育てを観察するための視点を得る。

■対象：小学校 4~6 年生

■授業への活用の方法

教員向けガイドブック「ツバメの子育てを観察しよう」で紹介している、ツバメの子育て調査を野外で実施する前の、事前学習教材としてご活用ください。

【授業の展開例】

①事前学習（室内） 所要時間：45分

- ・パワーポイント I 「ツバメの子育てを観察しよう」及び本資料を使い、ツバメの生態や観察方法を伝える。
- ・教員向けガイドブック「ツバメの子育てを観察しよう」から、調査用紙（シート 1 調査用紙、シート 2 ツバメの子育て調査用紙・1 回目の観察用、シート 3 ツバメマップをつくろう）をコピーし、生徒に配布する。パワーポイントを参考に、調査用紙への記入方法や留意点を確認する。
- ・野外調査の際のグループ分け（*）を行う。
 - *クラスの人数にもよりますが、ツバメの子育て観察は、活動しやすい人数（3~6 名程度）のグループに分かれて実施するとよいでしょう。

②野外調査（野外） 所要時間：45分

学校の周辺で、グループごとにツバメの子育て観察を行う。

調査の実施方法は、教員向けガイドブック「ツバメの子育てを観察しよう」を参照。

※野外調査実施後、調査のまとめは「ツバメの子育てを観察しよう - II 調査のまとめ 解説」をご覧ください。

※パワーポイント使用時の注意：パワーポイントは、プロジェクターで投影するほか、プリント・配布して利用いただけます。対象年齢や授業の内容にあわせて改編していただいて構いません。ただし、パワーポイント中の画像やテキストを抜粋して使用する場合は、必ずクレジット（日本野鳥の会）を入れてください。また、写真を使用する場合は、撮影者名を入れてください。

パワーポイント I ツバメの子育てを観察しよう

スライド1. ツバメの子育てを観察しよう

授業のテーマ（ツバメの子育て観察に出かける前に、ツバメについて知ろう）を紹介します。その際子どもたちに「この春、ツバメを見ましたか?」「ツバメは何をしていましたか?」「みなさんの家の周りではツバメは子育てをしていますか?」などと問いかけるとよいでしょう。



スライド2. 学習のねらい

この授業で学ぶポイントを説明します。

- ・ ツバメの生態や暮らし、子育てについて知る
「ツバメはどこから来るのかな?」「何を食べているのかな?」などと子どもたちに聞いてみましょう。
- ・ ツバメの子育てを観察するときに、どんな点に注意するとよいか知る



スライド3. ツバメってどんな鳥?

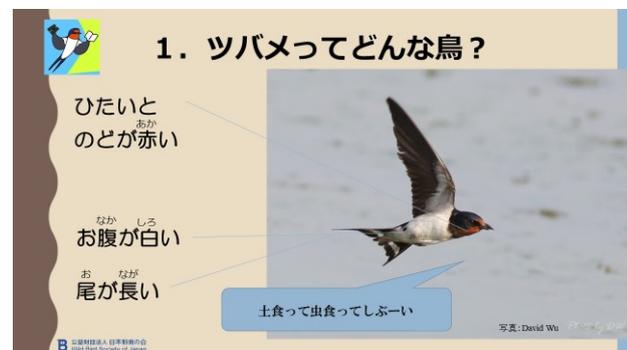
スライドを見せる前に「ツバメを見たことがある人は?」と声をかけ、体の色や大きさなど、特徴を聞くとよいでしょう。その後で、スライドの写真を見ながら、ツバメの特徴を確認します。

ツバメの鳴き声は「土食って虫食ってしぶーい」と聞こえます。(野鳥の声を人のことばにたとえることを「聞きなし」といい、他にもウグイスの「ホーホケキョ(法華経)」や、ホトトギスの「トッキョキョカキョク(特許許可局)」があります。)

ネット等からツバメの鳴き声を再生して聞かせるとよいでしょう。

*バードリサーチ・ツバメブログより、ツバメのさえずり

<http://tsubameblog.bird-research.jp/article/174621688.html>



なぜ、このような聞きなしができたのか、考えてみましょう。

ツバメの巣は、何でできていますか? ツバメは何を食べますか? 昔の人は、ツバメが土をくわえて運んで巣をつくる姿や、虫をとらえる姿を見て、このような聞きなしを考えたのでしょうか。

スライド4. 身近な渡り鳥

子どもたちに「ツバメはいつ（季節）見られるかな？」
「春から夏以外は、どこにいるのかな？」などと聞いてみましょう。

ツバメは春になると日本にやってきて、秋になると南の国へ渡っていく、渡り鳥です。日本で子育てをするツバメは、フィリピンやインドネシアなどの東南アジアの国からやってきます。その渡りの距離は、3000~7000 kmにもなります。

身近な渡り鳥

- 春に日本にやってきて、子育てをする
- 秋にフィリピンやインドネシア、マレーシア、ベトナム南部などへ渡り、冬を越す
- 3,000~7,000kmもの長旅！

鳥獣保護協会 日本野鳥の会
Japan Bird Society of Japan

スライド5. 世界に広く分布

ツバメは世界各地で見られます。ツバメが見られる地域を、スライドの地図を見ながら確認しましょう。オレンジ色が繁殖地（春から夏にかけて、子育てをする地域）、青が越冬地（冬の間過ごす地域）です。

アジアでは、日本のほか、韓国、中国、台湾、香港、ロシアなどの国で繁殖しています。

ヨーロッパのツバメは、アフリカ南部で冬を過ごします。

世界に広く分布

鳥獣保護協会 日本野鳥の会
Japan Bird Society of Japan

出典：田んぼのいぼもつたち ツバメ

スライド6. ツバメの一年

ツバメは春になると日本に渡ってきて、家の軒下などに巣を作ります。春から夏にかけて子育てをする姿が見られます。渡りの前には、ヨシ原に集まり、ねぐらをつくれます。秋になると南へと渡り、冬の間は東南アジアの国々で過ごします。

ツバメの一年

鳥獣保護協会 日本野鳥の会
Japan Bird Society of Japan

イラスト：片岡海里

スライド7. ツバメの食べ物・利用する環境

ツバメは、田んぼや畑、川などで、巣の材料になる泥をとり、えさになる虫を捕まえます。また、ツバメは、人家の軒先に巣を作り、私たちの目の前で子育てをします。人の出入りが多い場所に巣をつくることによって、カラスなどの外敵から守ってもらうためと考えられています。ツバメは人に見守られて、子育てをしているのです。

ツバメの食べ物・利用する環境

田んぼや畑、川で、巣の材料になる泥をとったり、えさになる虫をつかまえる
写真：David Wu

わたしたちの家や学校の近くで子育てをする
写真：Victor Yu

鳥獣保護協会 日本野鳥の会
Japan Bird Society of Japan

スライド 8. ツバメの食べ物・利用する環境

ツバメの食べ物は、ユスリカやアブ、トンボなどの飛ぶ虫です。これらの虫がたくさんいるような水辺や湿地が、私たちの身近な場所にあることが大切です。

スライド 9. ツバメの子育て

ツバメは3月末から7月にかけて子育てをします。巣を作り、卵を1日1個ずつ、合計4~6個産みます。卵をあたためる期間は約2週間です。ヒナが生まれてから巣立つまでは、約3週間かかります。ツバメは、オスとメスが協力して子育てをします。交代で卵をあたため（卵をあたためるのはメスの方が多いといわれています）、食欲旺盛なヒナにエサをはこびます。ヒナが巣立ってからもしばらく（2週間程度）は、親鳥とヒナは一緒に過ごし、その中でヒナはエサのとり方や飛び方をおぼえ、一人前になっていきます。春から夏にかけて、2回子育てをすることもあります。

スライド 10. ツバメが子育てできる環境

ツバメが子育てするには、どんな環境が必要だと思いますか？まず、エサになる虫がたくさんいるような、田んぼや畑、川が必要です。そして、巣を作ることができる建物があり、安全に子育てができることが必要です。

スライド 11. ツバメが減っている？

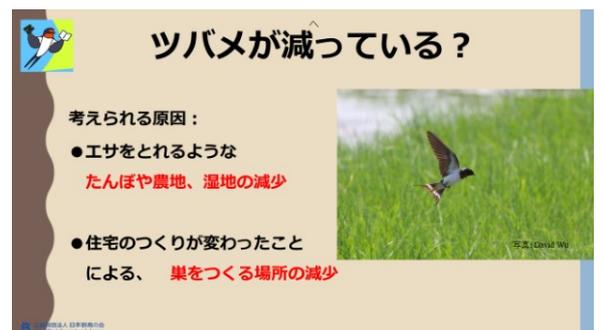
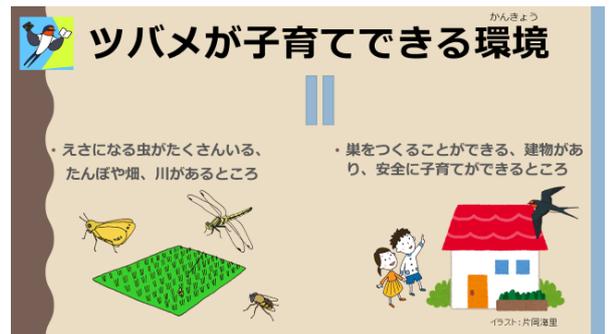
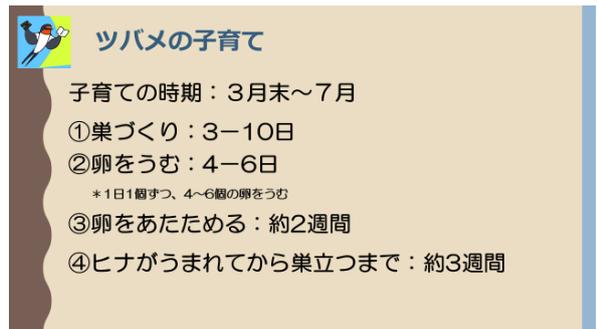
いくつかの調査結果から、日本ではツバメが減少傾向にあると考えられています。原因としては、ツバメがエサをとれるような田んぼや緑地が減ったことや、住宅の構造が変わったためにツバメが巣を作れる場所が減ったことが考えられます。

日本野鳥の会の調査では、緑地が少ない都市部では、地方よりも巣立ったヒナの数が少ないことがわかりました。

また、都市部では、人が巣を落としてしまうことで、子育てに失敗していることもわかりました。

スライド 12. ツバメの子育てを観察しよう

これから皆で、学校や家の周りのツバメの巣を探し、その



子育ての様子を観察します。

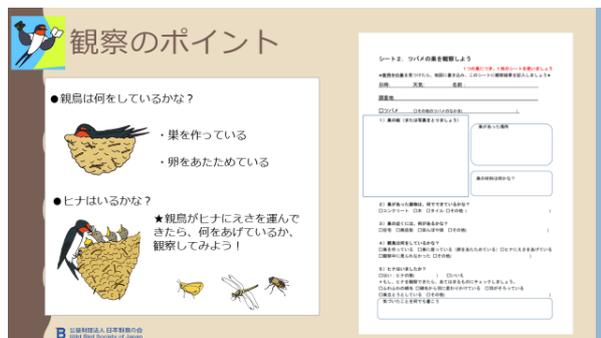
* 教員向けガイドブック「ツバメの子育てを観察しよう」から、調査用紙（シート1 調査用紙、シート2 ツバメの子育て調査用紙・1回目の観察用、シート3 ツバメマップをつくろう）をコピーし、生徒に配布する。

スライド 13. 観察のポイント

グループごとに調査コースを歩いて、ツバメの巣を探しましょう。ツバメの巣を見つけたら、使われている巣か、古巣かを区別して、「シート1 調査用紙」に数を記入しましょう。ツバメが出入りしていたり、巣の中に座っていたり、ヒナがいる巣は「使用中の巣」です。

調査中に、ツバメの巣がある家の人や、町の人に会ったら、ツバメを歓迎するかどうか聞いてみましょう。歓迎する・しないと答えた人数を「シート1 調査用紙」に記入しましょう。

使用中の巣を見つけたら「シート2 ツバメの子育て調査用紙（1回目の観察用）」に詳しく記録しましょう。巣の様子を絵に描き（または写真に撮り）、巣があった場所、親鳥の様子、ヒナがいるかどうか等を観察して記入しましょう。



スライド 14. 観察のポイント

巣があった場所の地図を「シート3 ツバメマップをつくろう」に書きましょう。目印になる建物（学校、スーパーマーケット、郵便局、交番、駅など）や、周りの環境（住宅地、商店街、公園、川など）も書き込みましょう。

使われている巣（子育て中の巣）は、継続的に観察しましょう。ヒナの成長過程を「シート6 ツバメの子育て調査用紙（2回目から）」に記録しましょう。

* 可能であれば、ヒナが巣立つまで観察を続け、巣立ったヒナの数を記録しましょう。



スライド 15. 調査用紙・地図の記入例

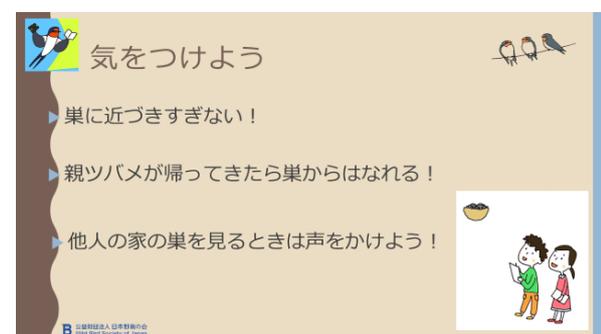
* 調査用紙と地図の作成例です。



スライド 16. 気をつけよう

ツバメの子育てを観察するときは、巣に近づきすぎないように気をつけましょう。

子育て中の親鳥は、警戒心が強くなっています。親鳥がヒ



ナにエサを運んで戻ってきたら、巣から少し離れて見守るとよいでしょう。
他人の家の巣を見せてもらう時は、その家の人に挨拶しましょう。

スライド 17. 観察に出かけよう

グループに分かれて、ツバメの子育て観察に出かけましよう。



◆◆◆スライド 18 以降は参考資料です。必要に応じてご使用ください。◆◆◆

スライド 18-19. 参考資料

ツバメは、台湾や香港、中国、韓国などでも子育てをしています。

台湾の小学生も、ツバメの子育て観察に取り組んでいます。



スライド 20. 参考資料・ツバメクイズ

Q イラストの中で、ツバメが食べないものはどれでしょう？
答え：ドングリ、花

スライド 21. 参考資料・ツバメクイズ

Q ツバメが巣をつくる場所は、どこでしょう？

答え：イ：家の軒下

<お問合せ>

(公財) 日本野鳥の会 自然保護室

141-0031 東京都品川区西五反田 3-9-23 丸和ビル

電話：03-5436-2633 FAX:03-5436-2635 E-mail:hogo@wbsj.org

教員向けガイドブック「ツバメの子育てを観察しよう」及び、本資料を利用されるにあたり、ご不明な点などありましたら、日本野鳥の会自然保護室までお問合せください。

以 上